

は
が

大島さん：「初めて会った時、そばでスッと座ってくれたことを覚えていています。」

くれます。『どこへ行くの?』と言っているようです。」と大島さん。

ありがとうホープ!! 8年の役目を終えて…



4月29日に、大島千明さん（安賀）と暮らす盲導犬ホープが、盲導犬としての役目を終えます。

ホープが大島さんのもとにやってきたのは8年前。社協職員が盲導犬の制度を紹介したことがきっかけでした。

おとなしいけれど、ちよつと神経質なホープ。はじめはよく体調を崩し、大島さんも苦労されたそうです。「今では、いつもと違う服を着ているだけで、出かけるの気づいて



大島さんと一緒に福祉学習へ。子どもたちの人気者になりました

ホープと一緒にいると、困った時など声をかけてもらいやすい反面、飲食店への入店を断られてしまうこともあるそうです。「私達もしつけに気をつけ、周囲にもっと理解してもらえば」と大島さん。

29日当日は、神戸市内で行われる盲導犬啓発イベントに参加したあと、兵庫盲導犬協会（神戸市）に戻ります。

引退したホープは、専門のボランティアのもとでゆっくり余生を過ごすとのこと。

地域・学校・そして大島さんのもとで活躍したホープ。本当にお疲れさまでした。そしてありがとう！

（波賀支部 岩井希望）

ち
くさ

5つのゲームで総勢36名が交流楽しみながらつながりのきっかけ

3月25日（金）、千種保健福祉センターにて千種支部老人クラブ連合会の主催による世代交流会が行われました。

この交流会は、老人クラブ会員と地域の子どもたちが、ゲームやレクリエーションを通じて、つながりを深めるとともに、地域内の連帯感を高めることや、会員相互の健康増進などを目的に行われたものです。

参加者最年少は4歳の男の子でした。「おばあちゃん、見といてよ」



交流でつながりづくり

支部老連が世代交流会を開催



子どもの声援に気合いも十分！

「おじいちゃん一緒にやろう」など楽しそうにふれあう様子があちらこちらで見受けられました。

同じ地域で生活しながら、顔を合わすことやふれあう機会も少ない昨今、日頃から良い人間関係を築き、つながりをつくりあげていくことはとても大切なことです。

このような交流会を大切にしながら、子育て支援、子どもの見守り、引きこもりの予防など、住民自身で進める小地域の福祉活動がいつそう広がるよう支援していきます。

（千種支部 春名豊滋）